

JECK LETTER

創刊号

平成15年4月1日
第1号

JICA帰国専門家連絡会かながわ 会報

JECK: Jica Expert Conference in Kanagawa

創刊号発行にあたり 代表幹事 中之蘆からのご挨拶

皆様はじめまして、「JICA帰国専門家連絡会かながわ」の代表幹事になりました横浜市水道局勤務の中之蘆賢治です。どうぞよろしくお願ひします。

「JICA帰国専門家連絡会かながわ」は、平成15年1月24日に設立総会をJICA横浜国際センターで開催して、108名の同意を得て設立することが出来ました。

設立にあたり、JICA国内事業部、横浜国際センターの皆様には多大なご協力を得ることができました。また、幹事・監査・事務局長になられた役員の皆様、発起人としてこの会をバックアップしていただいた皆様には感謝申し上げます。

我々役員は、平成14年度の業務として創刊号の会報の発行にむけて原稿作成、組織



平成15年1月24日 設立総会 於 JICA YIC 会議室

の強化、会員の確認等を行ってまいりました。

また、平成15年

度の総会に向けて活動計画等を作成し、ご承認を頂くべく準備して来ました。

今後の活動として、海外の開発途上国での厳しい環境の中で異文化を体験しながら、心と心のかけ橋を造ってきました会員の皆様方と共に帰国専門家間の交流、JICA事業への支援、地方公共団体、国際交流団体、国際理解教育関係機関と密接な連携を行い、国際協力に関する理解促進活動を行っていきたく思っています。

この会が益々発展するために、皆様と相互理解ができる会を目指していきますので、今後ともよろしくお願ひします。



代表幹事 中之蘆賢治

祝辞

JICA横浜国際センター所長
小森 剛氏

「JICA帰国専門家連絡会かながわ」の設立、おめでとうございます！

この設立は、中之蘆賢治代表幹事をはじめとする役員の皆様方や会員全員の皆様方の多大なるご尽力の賜物であり、関係の皆様方に心より敬意を表したいと思います。

国際協力とは、異なる人達と共に、暮らし易い生活ができる社会造りに汗をかくことだと思います。別の言葉で言えば、地球市民として共に現場の課題に取り組み、人間らしい生活ができる社会を目指すことも言えましょう。

ここ、かながわ地域は、開国以来、横浜港の後背地として首都圏の活性化を担うと共に、文明開化のさきがけとして日本の地球市民化をも担ってきた大変重要な地域であります。国際協力で求められる地域社会造りの知恵やノウハウが数多く存在しており、途上国にとって、ここはまさに宝の山なのです。

そのノウハウを有して国際協力を実践された皆様方は地域の宝・知的財産であり、その皆様方と連携して地域発の国際協力を目指せるのは、JICAにとって大変うれしくかつありがたいことでもあります。

貴連絡会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



祝辞

大分県JICA派遣専門家連絡会会長
大分医科大学名誉教授 糸賀 敬氏

「JICA帰国専門家連絡会かながわ」の創設、心から御祝詞申し上げ、貴会の今後益々御発展と、御活躍を祈念いたしております。

現在、全国的にみますと1都4県を除いて、42の連絡会が設立されており、大分県の連絡会は、本年で創設10年目を迎えます。

先進国と著しく異なった環境の中で、わが国の国際技術協力を推進し、その責務を果して来られた帰国専門家各位は、国際協力の素晴らしい実践者であり、国際交流、国際理解の第一人者でございます。帰国後も夫々の分野の専門家として、御活躍中の各位には、今後とも一段と「国民参加型」の国際交流・協力・理解の進展に積極的に御尽力、御寄与くださることを、御期待いたしております。

本会発足の経緯

JECKの立ち上げについては昨年の夏にJICAから話があり、11月13日に第一回のミーティングを開いて以来概ね月一回の準備会を経て平成15年1月の設立総会、そして会報の編集へと進んできてどうやら枠組みが出来ました。会員各位の積極的な関与をお願いする次第です。その都度メールやリスト等で国際交流支援等の連絡をします。また今回の会員勧誘については限られた情報源だけを使用したので会員のご存知の方で入会希望の方がいらっしゃいましたら事務局に連絡して下さい。